

そうじの力だより

VOL.198



支援事例紹介

誰もがわかる社内環境を作る
〜心配りのプロ集団を目指して〜

福井県鯖江市といえば、日本一のメ
ガネの産地。当地の(有)ファインは、そ
のメガネフレームなどに、デザイン装飾
を施す特殊印刷業です。社員一〇人
の、アットホームな会社です。

同社で、弊社のお手伝いにより環境
整備が始まったのは、ちょうど一〇年
前でした。

開始前は、床と云い、機械と云い、
インクまみれでした。「印刷業なのだか
ら、インク汚れは当たり前」と、誰も気
にする人はいませんでした。

また、
工場内
が手狭
で、繁忙
期には
製品が
山積み
になり、
まとも
に通路
も確保
できない
ような状況
でした。



環境整備スタート前の工場内のようす

環境整備が始まって、まず行ったの
は、モノを捨てることでした。当初、一
人の作業者につき二台あったデスクを
一台にし、最終的にはその一台も捨て
て、社長お手製の小ぶりのワゴンにな
りました。

使っていない什器や、長らく使用実
績のない版も処分し、モノの総量を減
らしたことで、自由に使える空間が拡
がりました。

がり、工
場内は
広々とし
たスペー
スに生ま
れ変わ
りました。

次に、
床や機械
にこびり
ついたイン
クをこそげ落とし、汚れという汚れを
一掃しました。

そして、道具や資材の定位置化を細
かく行い、在庫管理のルールも明確化
しました。

スタートした当初は、毎朝一〇分
間、全員で掃除をしていたのですが、す
ぐに、「一〇分間では短い」という声
上がり、三〇分間に延長されます。

毎朝三〇分間の掃除に加えて、週に
一回は全員で床面の雑巾がけを行い、
やはり週に一回、輪番で巡回チェック
して要改善
善点の洗
い出しを
行い、加
えて月に
一回全
員で二時
間かけて
大がかり
な改善を
行っていま
す。



現在の工場内のようす



床面を雑巾がけしてピカピカに保つ

さらに、床面や壁面は、DIYで塗
装したり壁紙を貼ったりして、より快
適な空間に進化させています。

お
か
げさ
ま
で、開
始
前と比
べ
ると、別
の会社
のよう
に、キ
レイ
で整
った状
態にな
りました。



グレーだった床面をDIYでライトグリーンに

こうした環境整備で、効率が良くな
り、安全性が高まり、ミスが少なく
なったことはもちろんですが、同社の一
番の特徴は、「楽しく」取り組むこと。
「どうせやるなら楽しくやろう！」が
合言葉です。

もともと明るい社風だったのが、環
境整備を通じてお互いのコミュニケーション
が良くなり、ますます明るさに
磨きがかかっています。

もちろん、一〇年も続けていれば、
マンネリ感もあります。停滞した時期
もありました。それでも、常に進化す
ることを心がけています。

先日、リーダーとサブリーダーが
交替したばかりです。今期の目標は、
「誰もがわかる社内環境を作る」です。

整理・整頓のレベルは、かなりの状態
ではあります。あらためて、新人や
部外者でもわかる状態を作ろう、とい

うことです。

そこには、「心配りのプロ集団を目指
す」という想いがあります。誰もが働
きやすく、思いやりがあり、みんなに
優しく、助け合える集団を目指す、と
いう想いです。

ち
ょう
ど十二
月に
新入
社員
が入
りま
した。
彼で
もわ
かる
よう
に、あ
らた
めて、
表示
や標
識を
やり
直し、
引出
の中
身も、
担当
者以
外で
もわ
かる
よ
うに
見え
る化
してい
ます。



ウェルカムボードで明るい雰囲気

以前は、見学者が多く訪れていたの
ですが、この一年半は、コロナのため
見学者を受け入れていませんでした。
しかし、見学者は、何よりも社員さん
たちのモチベーションにつながります。

コロナがそのままの推移で落ち着け
ば、年明けから外部の見学者の受け入
れを再開する予定です。

そのためにも、見学者に訪れた人た
ちがわかりやすく、楽しんで、感銘を受
けてもらえるような工場内に進化さ
せていく計画です。

(有)ファインの環境整備に、終わりは
ありません。(小早)

新サービス『環境整備診断』はじめました！御社の「健康状態」を環境整備の観点で診断し、改善策をご提案します。詳しくは弊社ホームページをご覧ください。



そうじの力コラム

私の群馬移住物語⑥

〜吉原つとむ、小早〜

前回ご紹介したとおり、焦点の定まらないモフラリアム大学生だった私は、就職に関しても、焦点が定まりませんでした。

どんな職業に就いて、どのような働き方をするのか、まったくイメージが湧きません。とりあえず、同級生が就職活動をしているので、自分もしなきゃ、という感じで、OB訪問などを始めました。

そんな中で、唯一の手がかりは、子どもの頃から自動車やバイクが好きだった、ということでした。小学生の頃は、車やバイクのプラモデルを作るのが好きでした。当時はスーパーカーブームで、街でポルシェやカウンタックを見かけると、飛んでいつて舐めるように眺めていたものです。

大学生の時は、サーキットに出かけて、車やバイクのレースを観戦しました。

「仕事のイメージなどまったくありませんので、漠然と、車やバイクに関わる仕事なら面白そうだな、と思い、第一希望を自動車メーカーに決めました。

ちょうどバブル崩壊の直前で、就職戦線は、売り手市場でした。他業種のメーカー数社からも内定をもらいましたが、第一希望だった日産自動車(株)から内定をもらい、同社に入社することになります。

文系の私が、自動車メーカーに入って何をするのか。世の中を知らない浅はかな大学生が考えることです。広報や宣伝部門で、新車のカントリーTVコマーシャルを作るだとか、国内営業部門で販促キャンペーンを企画するだとか、あるいは、輸出部門で海外を飛び回って活躍する、などといった妄想を巡らせていました。

期待に胸を膨らませて臨んだ入社式。続けて、約二週間の新入社員研修が行われます。

その新入社員研修の最中に、『配属面接』がありました。「希望の部署は？」と問われて、「広報、宣伝、国内営業、海外営業」と答えましたが、面接官から「人事なんてどうかな？」と問われて、面食らってしまいます。

「人事って何？」という感じです。

で、新入社員研修の最終日に発表された辞令には、「吉原工場総務部人事課」と書かれてあります。

人事って、車と何の関係もないじゃん！とショックを受けて落ち込む暇もありません。すぐに荷物をまとめて任地に移動しなければなりません。

ところで、『吉原』ってどこ？まさか、東京の遊郭じゃないよね？とオロオロ。

静岡県の富士市に、吉原という所があり、そこに日産のトランスミッション工場があるのです。その工場の人事課に配属されたのでした。

行ってみると、製紙工場をはじめとする工業地帯。華やかでオシャレな街並みは、どこにもありません。

しかも、トランスミッション工場なので、工場内で車を見ることもありません。

希望と違う任地、部門に配属され、まさに泣きながら過ごした二年間でした。

そんな私の唯一の慰めは、迫るほどに大きく見える富士山でした。〔続く〕(小早)

編集後記

20周年

おかげさまで、私たち夫婦は、結婚20周年を迎えることができました。

先日、2人の子どもたちを含めた家族4人揃って、近所のおいしいステーキ屋さんで、記念の食事会をしました。(4人で撮った写真を載せようとしたら、女房からNGが出たので、代わりに肉の写真です…)

そんな記念すべき年も暮れて、新たな年が明けます。

令和3年、誠にお世話になり、ありがとうございました。令和4年も、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。(小早)



飛鳥のつばやき

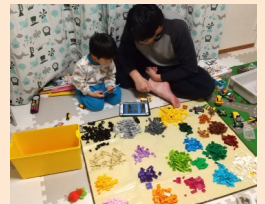
絶対寝ないマン

次男が寝た後は、帰宅が遅い父とレゴブロックで遊べる唯一の時間のため、暗闇の中を意地でも起きている長男。

タブレットで様々な車の作り方を探しては、せっせと制作に勤んでいます。

…お気づきでしょうか、ブロックが綺麗に色分けされていることに。混ぜた何百ものパーツを毎回分類させられるのは、なぜか母の役目(所要時間:1時間半)。

絶対分類やりたくない母VS絶対レゴしたい長男の寝かしつけの戦いが、今夜も繰り広げられます。(大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)